

Br. Holdings Report



第15期 中間報告書 平成28年4月1日～平成28年9月30日



株式会社 ビーアールホールディングス

証券コード：1726

「人と人」「技術と技術」の橋渡し

ビーアールホールディングスグループは、
異なる事業特性・成長ステージを擁するグループ企業で構成された企業群を目指します。
そのグループ全体をまとめ、企業価値の最大化に努め、
資本効率のさらなる向上を目指すのが、
ホールディング・カンパニーとしての当社の役割です。
欧州統一通貨ユーロ紙幣の裏面は、全てのコミュニケーションを象徴する
橋のイメージのデザインで統一されています。
株式会社ビーアールホールディングスの経営理念も同じです。
技術で社会に貢献する企業グループとして、
これからも「人と人」「技術と技術」の橋渡しをすることに取り組んでまいります。



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

さて、当社第15期の第2四半期連結累計期間の決算(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)が終了しましたので、当社グループの業績及び事業活動の概況をとりまとめご報告させていただきます。

当社グループの第15期上半期の業績は、受注高が11,042百万円と前年同期(12,446百万円)から11.3%減少し、前年同期の過去最高額を上回することはできませんでした。しかしながら、建設事業の当期期首手持工事が21,379百万円と前年同期(16,968百万円)を26.0%増と大幅に上回っていたため、当上半期の売上高は10,292百万円と前年同期(8,152百万円)から26.3%増加し、その結果親会社株主に帰属する四半期純利益は35百万円と前年同期(親会社株主に帰属する四半期純損失345百万円)から大幅に改善することができました。これは前期の受注が好調なだけでなく、比較的高い利益率が見込める工事が多く、工事の進捗率が順調なためで、この10年で2度目の上半期黒字を達成することができました。

また、当社株式は株式会社東京証券取引所の承認を受け、本年3月29日に東京証券取引所市場第二部より同市場第一部銘柄に指定されました。これもひとえに、株主の皆様、お取引先様をはじめ、関係者の皆様からのご支援の賜物と心より感謝申し上げますとともに、このたびの中間配当につきましては、普通配当2円に、記念配当1円を加えて、1株当たり3円の配当を行うことといたしました。

さらに、当社は本年9月に上場以来初の公募増資を実施し、第三者割当による自己株式の処分と併せて、1,188百万円の資金を調達いたしました。

この調達資金を高速道路会社による「高速道路リニューアルプロジェクト」等に対応するための生産能力増強に伴う設備投資資金に充当することにより、持続的な成長を図るとともに、財務基盤強化を進め、企業価値の更なる向上を目指してまいります。

なお、本年10月1日を効力発生日として、当社普通株式1株につき、2株の割合をもって株式分割を実施いたしました。この株式分割は、当社株式の投資単位当たりの投資金額を引き下げることにより、当社株式の流動性向上と投資家の皆様により投資しやすい環境を整えることで投資家層の拡大を図ることを目的としています。

当社は、「人と人」「技術と技術」の橋渡しの経営理念のもと、「技術で社会へ貢献する」企業グループとして、これからも、資本効率の更なる向上を目指し、より多くの皆様のご期待にお応えできるよう邁進してまいりますので、引き続きご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年11月



代表取締役社長

藤田 公康

PROFILE

(株)ビーアールホールディングス
代表取締役社長 藤田 公康
(昭和25年9月9日生)

- 昭和49年 慶応義塾大学法学部
政治学科卒業
- 昭和51年 ハートフォード大学
経営学部修士課程卒業
(MBA)
- 昭和51年 大塚製薬(株)入社
企画課長
- 昭和56年 極東工業(株)(現極東興和(株))
入社 取締役社長室長
- 昭和60年 同社代表取締役社長
- 平成5年 同社代表取締役会長
- 平成14年 当社取締役
- 平成17年 当社代表取締役社長(現任)

<兼職>

- 昭和63年 (社)広島青年会議所 理事長
- 平成2年 (社)日本青年会議所 会頭
- 平成27年 極東興和(株)
代表取締役社長

●各事業区分の主要な内容

1. 建設事業

橋りょう土木工事の設計・施工

2. 製品販売事業

コンクリート二次製品の販売

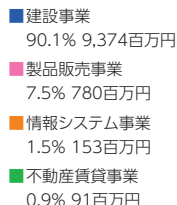
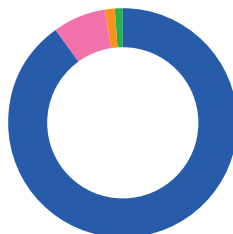
3. 情報システム事業

システム開発・販売

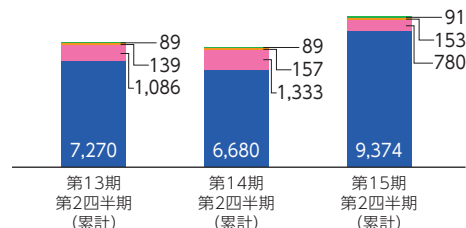
4. 不動産賃貸事業

当社ビルのマンション賃貸運営等

●売上高構成比



●売上高推移(百万円)



建設事業

売上高 **93億74百万円** 前年同期比 **40.3%増**

建設事業におきましては、受注が好調であった前年同期と比べ大型工事の受注高が減少し、当第2四半期連結累計期間の受注高は93億37百万円(前年同期比13.1%減)となりました。一方、前期から繰越しの比較的採算性の高い大型工事の進捗

により売上高は93億74百万円(前年同期比40.3%増)、セグメント利益は5億65百万円(前年同期セグメント利益47百万円)となりました。

製品販売事業

売上高 **7億80百万円** 前年同期比 **41.5%減**

製品販売事業におきましては、当第2四半期連結累計期間の受注高は前年並みの14億円(前年同期比0.4%減)となりましたが、建築部材の出荷数量が減少したことにより、売上高は7億80百万円(前年同期比41.5%減)、セグメント利益は48百万円(前年同期比16.0%減)となりました。

情報システム事業

売上高 **1億53百万円** 前年同期比 **2.3%減**

情報システム事業におきましては、アベノミクスの波及効果も表れ、需要も増えてきておりますが、企業収益や設備投資の格差、都市部と地方の格差、慢性的なSE(システムエンジニア)不足などまだら模様で不透明な状況が続いております。当第2

四半期連結累計期間の売上高は1億53百万円(前年同期比2.3%減)、セグメント損失は16百万円(前年同期 セグメント損失16百万円)となりました。

不動産賃貸事業

売上高 **91百万円** 前年同期比 **2.1%増**

不動産賃貸事業におきましては、当社保有の極東ビルディングにおいて、事務所賃貸ならびに一般店舗・住宅の賃貸管理のほか、グループ会社の拠点として、当社が一括して賃借した事務所を各グループ会社に賃貸しており、安定した売上高を計上しております。当第2四半期連結累計期間の売上高は91百万円(前年同期比2.1%増)、セグメント利益は57百万円(前年同期比2.9%増)となりました。

Topics ① 歌高架橋 (極東興和株式会社)

歌高架橋2工区・3工区：(新潟県糸魚川市)

北陸地方整備局の発注で現在施工中の橋りょうです。

糸魚川市親不知の鉄道と道路に挟まれた狭隘な施工環境の中で、来年3月の竣工と、工期が短いことが最大の問題でしたが、門型クレーンとダブルガーターを組み合わせ、高次元で効率と安全性を両立させた架設工法などを技術提案し、受注しております。平成28年3月の受注で、両工区ともに平成29年3月の完成予定であります。

2工区：PC6径間連結ポステン中空床版橋(セグメント)
L=198.0m W=10.39m(9.5m) N=54本

3工区：PC5径間連結ポステン中空床版橋2橋(セグメント)
L=165.0m+145.0m W=10.39m(9.5m)
N=45本+45本



Topics ② 北進大橋 (極東興和株式会社)



北進大橋は、埼玉県行田市の星川に架かる新設橋りょうで、県道行田市停車場酒巻線の幅員を拡幅し、大型車の通行を確保するためのバイパス化工事の一部です。構造形式はPC単純T桁橋で、現地で主桁を製作するポステンション方式の施工方法でした。架設工法

は架設桁と主桁を吊り上げ、所定の位置に桁を据え付ける門構を併用し、主桁の架設を行いました。技術を継承するため、当社職員と協力業者のベテラン指導員により、若手職員や作業員を対象にした現場施工研修会を行いました。さらに、発注者や地元住民への現場説明会・見学会・視察への対応、大学生のインターンシップ等を積極的に受け入れ、発注者の要求事項を満足させ工事を完了しました。



Topics ③ 曙橋 (東日本コンクリート株式会社)

曙橋は、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町の志津川湾沿いに位置する橋りょうです。志津川地区は高さ10m以上の津波が押し寄せ、町全体が流される被害を受けました。現在、復興事業として盛土による町全体の高上げが計画され各種



工事が進められていますが、その一環の橋りょう工事として曙橋架け替え工事を施工しました。曙橋の路線は多くの地元漁業関係者に利用されますが、各種工事により周辺道路の交通渋滞が著しいことから、曙橋を含む県道の早期開通が望まれる中での工事となりました。

本橋りょうは橋長66mのPC単純2室箱桁橋でこの形式では最大級の規模でしたが、平成27年9月より着手して順調に工事を進め、平成28年7月末に無事故無災害で完成しました。



Topics ④ 屋島大橋橋りょう修繕工事 (極東興和株式会社)



屋島大橋は、香川県高松市の北東部を流れる相引川に架けられた橋で、市内の東西を結ぶ要衝となっている橋りょうです。近くには、源平合戦の屋島の戦いの舞台となった壇ノ浦があります。

このたび、高松市役所から本橋の橋台、橋脚それぞれ1基の補修工事が発注され、そのなかでアルカリ骨材反応対策として、当社のASRリチウム工法が採用されました。

Topics ⑤ 東矢本駅北地区津波復興拠点整備工事 (極東興和株式会社)

宮城県東松島市の沿岸地域では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の津波により甚大な被害(1,263戸の住宅流出)を受けました。

東矢本駅北地区津波復興拠点整備工事では、沿岸の災害危険区域からより安全な内陸部への集団移転を促進するために、人的被害が甚大であった大曲浜地区を主対象とする集団移転先(約580戸)を確保するための住宅地が整備されます。



今回、整備地区の東西を結ぶ東西幹線道路の拡幅計画により新設される門型カルバートの基礎として、杭基礎が検討されましたが、現場は病院の隣接する現道脇であり、先行して造成された地区の新築民家に近接する非常に狭隘な条件であったため、小型機械を使用し周辺影響の小さい高耐力マイクロパイルが採用されました。病院・民家に近接した施工条件であり、防音対策に留意して無事施工完了しました。

宅地造成及び集団移転が早々に進み、一日でも早く被災された皆様に安心安全な暮らしが戻るよう祈念しております。



Topics ⑥ 東城中央線橋りょう 〈極東興和株式会社〉

東城中央線橋りょうは、広島県北東部の庄原市東城町川鳥地区に架かる新設橋りょうです。林道整備事業に伴い新たに開設される東城町戸宇地区と川鳥地区を結ぶ林道東城中央線の一部となります。本橋りょうは、標高が660m～730mの山あいの急峻な地形に位置し、冬期には積雪が1m以上となるような豪雪地域で厳しい施工条件でした。環境対策としては山間部の自然に配慮した汚濁防止対策を行い、環境に優しい施工を心がけました。また、自治会行事(運動会・クリーン作戦等)への参加や、小学生の現場見学会等を開催し、地域とのコミュニケーションを積極的に行い、発注者からは施工管理を含め高い評価をいただきました。



「ミッシングリンクの解消と大規模修繕事業に挑む」

高速道路は、国や地域の道路網の中核を担い、我が国の産業の発展にとって欠くことのできない社会インフラとして機能しています。昭和38年(1963年)に名神高速道路の一部が開通して以来、その総延長は9,000kmを超える規模を有しています。

しかしながら、国内には多くの未整備の高速道路区間(ミッシングリンク)が残されており、速達性や定時性の確保に影響しています。現在、日本の都市間連絡速度は59km/hと、ドイツ(90km/h)、フランス(88km/h)、イギリス(72km/h)と比較すると国際競争力確保の観点からも、このミッシングリンクの解消が望まれています。当社では、高速道路の橋りょう建設事業として、新名神高速道路 楊梅山高架橋、及び八幡ランプ橋などの工事を鋭意施工しており、政府の掲げる国土強靱化に向けた国土軸の形成に寄与しています。

一方、高速道路の開業以来、長期間にわたり利用されてきた構造物が経年や交通量の増大、塩害など様々な要因により深刻なダメージを被っています。高速道路会社各社は、近年大規模修繕・更新事業を相次いで開始しました。なかでも、鋼製の橋桁の上部に設置されている鉄筋コンクリート製の床版(RC床版)を、プレストレスコンクリート製床版(PC床版)に置き換える事業は、今後発注が本格化する見込みで、15年間で1.65兆円規模の市場となります。当社は、中国自動車道 容谷橋、同 山田橋のPC床版取替工事を現在施工しており、当社グループが要する5工場の

生産設備を増強し、今後も積極的に同事業に取り組むことで、高速道路を安全で快適にご利用いただけるよう、努力を重ねる所存です。

参考：現在施工中の物件です。



楊梅山高架橋：大阪府(NEXCO西日本 大阪府高槻市)

工期：平成24年12月～平成29年4月

概要：PRC12径間連続箱桁橋 L=1,097 W=10.8～24
 PRC11径間連続箱桁橋 L=1,107 W=10.8～24
 PRC2径間連続箱桁橋 L=224.6 W=8.5
 PRC2径間連続箱桁橋 L=266 W=8.5

● 四半期連結貸借対照表のポイント

(単位：千円)

	当第2四半期末	前連結会計年度末
	平成28年9月30日現在	平成28年3月31日現在
流動資産	12,199,471	10,454,692
固定資産	4,204,761	4,255,700
有形固定資産	3,474,588	3,500,260
無形固定資産	95,517	95,341
投資その他の資産	634,654	660,098
資産合計	16,404,232	14,710,392
流動負債	11,142,888	10,810,565
固定負債	1,373,273	1,219,721
負債合計	12,516,162	12,030,287
純資産	3,888,070	2,680,105
負債・純資産合計	16,404,232	14,710,392

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

POINT

四半期連結貸借対照表

当第2四半期連結会計期間末の総資産は164億4千万円となり、前連結会計年度末比16億93百万円の増加となりました。その主な要因は、受取手形・完成工事未収入金等が7億11百万円減少したものの、未成工事支出金が7億90百万円、未収入金は7億21百万円、現金預金が5億13百万円、商品及び製品が3億88百万円増加したことによるものであります。有利子負債は9億23百万円減少し、28億30百万円となりました。純資産は、資本金が5億17百万円、資本剰余金が6億21百万円増加、自己株式の処分49百万円による増加等により、前連結会計年度末比12億7百万円増加の38億88百万円となりました。

● 四半期連結損益計算書のポイント

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間
	平成28年4月1日～ 平成28年9月30日	平成27年4月1日～ 平成27年9月30日
売上高	10,292,777	8,152,205
売上原価	9,071,256	7,435,941
売上総利益	1,221,521	716,263
販売費及び一般管理費	1,036,043	1,027,937
営業利益又は営業損失(△)	185,478	△311,673
経常利益又は経常損失(△)	160,258	△326,432
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	35,460	△345,055

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

POINT

四半期連結損益計算書

売上高は102億92百万円(前年同期比26.3%増)、営業利益は1億85百万円(前年同期 営業損失3億11百万円)、経常利益は1億60百万円(前年同期 経常損失3億26百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は35百万円(前年同期 親会社株主に帰属する四半期純損失3億45百万円)となりました。

● 四半期連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間
	平成28年4月1日～ 平成28年9月30日	平成27年4月1日～ 平成27年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	448,474	1,263,126
投資活動によるキャッシュ・フロー	△177,864	△114,109
財務活動によるキャッシュ・フロー	212,470	△516,474
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	483,080	632,541
現金及び現金同等物の期首残高	1,256,136	764,959
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,739,216	1,397,500

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

POINT

四半期連結 キャッシュ・フロー計算書

「現金及び現金同等物の四半期末残高」は、前連結会計年度末に比べ4億83百万円増加し、17億39百万円となりました。「営業活動によるキャッシュ・フロー」は4億48百万円の獲得(前年同期は12億63百万円の獲得)、「投資活動によるキャッシュ・フロー」は1億77百万円の使用(前年同期は1億14百万円の使用)、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は2億12百万円の獲得(前年同期は5億16百万円の使用)となりました。

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間
	平成28年4月1日～ 平成28年9月30日	平成27年4月1日～ 平成27年9月30日
建設事業	9,337,252	10,744,626
製品販売事業	1,400,808	1,406,505
情報システム事業	212,995	205,983
不動産賃貸事業	91,760	89,861
合計	11,042,816	12,446,977

会社概要

Corporate Profile

● 会社概要 (平成28年9月30日現在)

商号	株式会社 ビーアールホールディングス Br.Holdings Corporation
設立	平成14年9月27日
本社所在地	広島市東区光町二丁目6番31号
電話	082-261-2860(代表)
資本金	3,017,041,000円
決算期	3月31日
従業員数	8名(連結491名)

● 代表者及び役員 (平成28年9月30日現在)

代表取締役社長	藤田 公康
取締役	土屋 英治
取締役	多賀 邦行
取締役	山根 隆志
取締役	山 縣 修
取締役	石井 一生
取締役	天津 武史
取締役・常勤監査等委員	藤並 信幸
取締役・監査等委員(社外)	小田 清和
取締役・監査等委員(社外)	佐上 芳春

● グループの概況 (平成28年9月30日現在)

極東興和株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/PC構造物の設計・施工
PC及びRC製品の設計・製造・販売等
コンクリート構造物の診断・補修・補強等

東日本コンクリート株式会社

本社所在地/仙台市
事業内容/PC構造物の設計・施工
PC及びRC製品の設計・製造・販売等
コンクリート構造物の診断・補修・補強等

キョクトウ高宮株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/PC製品及びコンクリート二次製品の設計・製造・販売・施工等

ケイ・エヌ情報システム株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/ソフトウェアの設計・開発及び販売等



豊工業株式会社

本社所在地/大分市
事業内容/PC及びコンクリート二次製品の製造・販売等

●株式の状況 (平成28年9月30日現在)

発行可能株式総数……………60,000,000株
 発行済株式の総数……………19,850,000株
 株主数……………11,960名

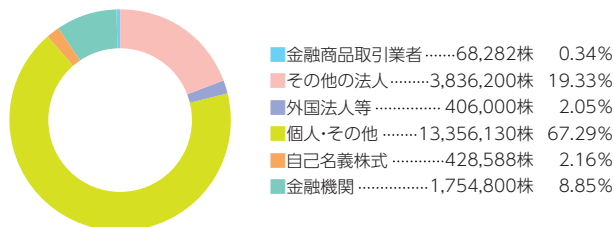
(注)当社は、平成28年10月1日付で株式分割に伴う定款の変更を行い、発行可能株式総数は、60,000,000株増加し、120,000,000株となっております。また、発行済株式の総数は、17,240,000株増加し、34,480,000株となっております。

大株主 (上位10名)

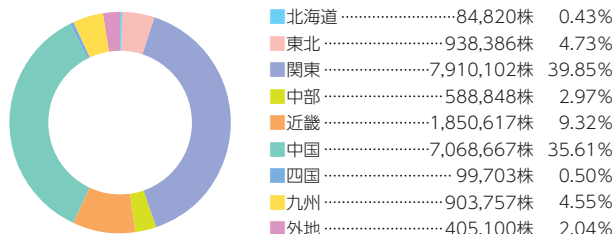
株主名	持株数	持株比率
トウショウ産業株式会社	2,400 (千株)	12.36 (%)
藤田 公 康	1,347	6.94
ビーアールグループ社員持株会	677	3.49
ビーアールグループ取引先持株会大阪支部	510	2.63
広成建設株式会社	494	2.54
ビーアールグループ取引先持株会広島支部	468	2.41
長 谷 部 正 和	453	2.33
株式会社三菱東京UFJ銀行	400	2.06
藤 田 雄 山	370	1.91
遠 藤 祐 子	366	1.89

(注) 1. 持株比率は自己株式(428千株)を控除して計算しております。
 2. 当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。持株数については、株式分割前の株数を記載しております。

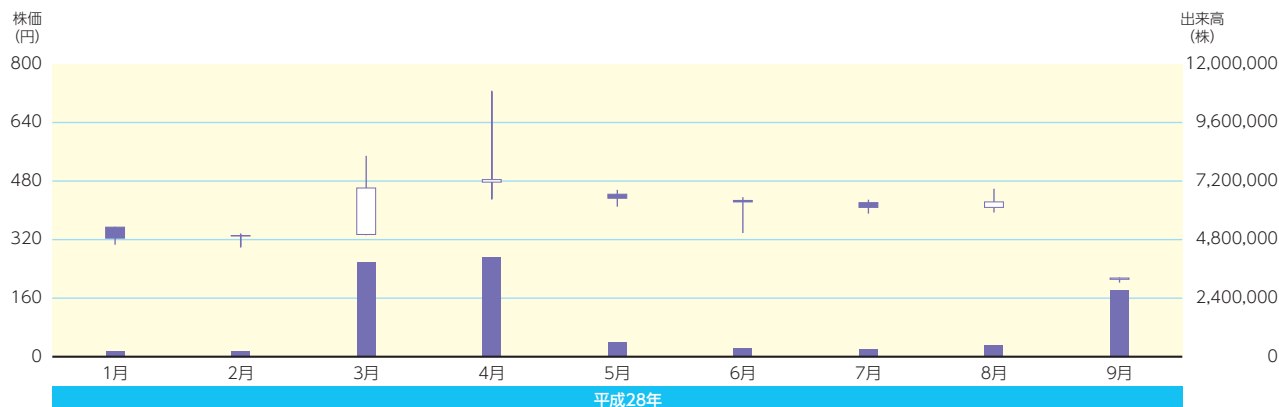
所有者別株式分布状況



地域別株式分布状況



●株価の推移



(注) 上記のグラフでは株式分割(平成28年10月1日: 1株→2株)に伴う影響は加味しておりません。

●株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 当社ホームページ (http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html)にて掲載。 (ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。)

●表紙写真について



小田第1高架橋(島根県出雲市)

(極東興和株式会社)

工事概要：PC5径間連続ラーメン箱桁橋

橋長L=473m 全幅員W=10.15m

一般国道9号多伎・朝山道路で施工中の橋りょう
です。中国地方整備局発注(WTO)で、平成30年
1月の完成を目指しています。



株式会社 ビーアールホールディングス

広島市東区光町二丁目6番31号 TEL 082-261-2860 FAX 082-261-2861

ホームページ <http://www.brhd.co.jp/>

IR情報を当社ホームページに掲載いたしておりますので、こちらからもご覧ください。

